



組合員の購読料は
組合費に含まれます

荒川区西日暮里2-55-1
国鉄労組東京地方本部
発行責任者 阿部 力
編集責任者 宮崎浩則

No. 1663 定価
15円

2005年
6月5日

第76回 日比谷メーデー開催



「働く者の団結で生活と権利、平和と民主主義を守る」をメインスローガンに、第七六回日比谷メーデーが、全世界の「統一行動日」である五月一日に開催された。

民間労組懇・田宮氏の開会宣言で始まり、東水労・丸林副委員長、国労東京・笹原書記長を議長団に選出したのち、主催者を代表して国労東京・阿部委員長が「春闘、平和と民主主義問題」や「JR西日本における重大事故について、安全の確保が最優先されなければならない」などの挨拶を行った。次に、都労連・増淵委員長の連帯挨拶、東京都・関谷産業労働局長と福島みずほ参議院議員からの来賓挨拶、都高教・松家執行委員からのメッセージが読み上げられた。



続いて、PANTA&中川五郎withSKの演奏、全国一般なんぶ・郵政労働者ユニ

国労加入を 大胆に訴えよう

二オン・国労東京闘争団・全国一般東京労組からの決意表明・訴えが行われ、アピール採択、議長団解任、全労協・藤崎議長への団結がらばらうの後、二つのコースに分かれてデモ行進に出発した。

都労委 貨物二%で国労勝利

五月一日東京都労委は、JR貨物会社に対して、〇一年度期末手当支払い差別支給について、国労の主張を認め、「会社全体の平均適用率と同率となるよう」是正を命じる不当労働行為救済命令を交付した。

この事件は、JR貨物会社が〇一年度の夏季・年末手当回答の席上、突然、就業規則に

我が支部自慢

(第九回・大宮支部)

武蔵野・京浜東北・宇都宮・高崎・埼京・川越の六線を持ち、三〇分会四五〇名の組合員で構成する大宮支部は、二〇〇一年三月に支社発足に併せて、地区本部と共に結成された。運転三・運輸一七(駅一五・車掌二)・工務六・電気三・貨物一の分会で成り立ち、職能別協議会は地区本部が中心となり、支部

中央支部

(東京電気
工事事務所
分会)

で復帰加入

JR連合から

(5/1付)



支部と連協の役員

支部レクで...



国労組合員を大いに励ますものである。JR貨物会社が鉄道事業として健全な発展をとげ、社員が安全で安心して働き続けられる状況を確立するために、さらに奮闘する決意である。そのためにも、JR貨物会社が命令を真摯に受けとめ、命令の完全な履行を求める。

命令受け取り後、交通会館に於いて、勝利命令報告集会が開催され、酒田委員長は「貨物会社は都労委命令を真摯に受け止め服するよう求める」とした。

担当弁護団の牛久保弁護士からは「会社の主張が全面的に批判された命令であり、基本的には勝利命令。だが会社全体の平均適用率と同率になるようにという、比率的には少ないもの。現場での調査が実を結んだ」と命令の解説が報告された。最後に全国貨物協議会・久松議長長の決意表明を受けて、更なる闘いの意思統一を行った。

間でも集まれ交流できる場づくりとなっている。

教宣部としては、レクなどへの参加呼びかけを行う一方、行事開催に極力参加しながら写真の活用も含めて、機関紙の充実を図っている。

支部は、職場の実態を踏まえた取り組みを中心に、仕事を知り、仕事を見直すことによる安全への取り組みを目指している。組織的には試験問題があるが、職場によっては、現場長によるパワーハラスメントなども散見されるのでその対策についても取り組んでいる。

最後に松井書記長は「仕事の議論を行い、良い意味で会社とケンカをしていく。職場でも仕事の議論を行い、それが中心に座ることになる。組合員が集まれる結果軸をつくり、機敏に対応できる組織づくりを目指す」と決意を述べた。

(大宮支部教宣部長・佐藤薫)

イチマル行動で(5/10) 横浜支部が職場オルグ

五月一日、組織拡大に向けた職場オルグが横浜支部で展開された。冒頭支部事務所で、オルグ行動成功に向けた意思統一が行われた。その後鶴見線営業所分会の職場集会に入り、地本・笹原書記長から「昇進和解協議に向けた国労の態度、西日本における事故、組織拡大に向けてそれぞれの立場から頑張っていこう」との話がされた。

五月二〇日、昨年開催できなかった期待の第六回海釣り大会が、川崎・つり幸を舞台に開催された。当日は、地本の大会としては天候に恵まれ、腕はさて置き、それなりの成果を期待して観音崎沖や剣崎沖に、いざ出船した。しかしながら、いくら柵を変えようが竿先がピクリともしない。結果、アジ船の竿頭は六匹、タイ船は何とゼロ!のため、外道のサバの本数で競う羽目になった。来年こそは、天候も釣果も



第6回 海釣り大会 開かれる

五月二〇日、昨年開催できなかった期待の第六回海釣り大会が、川崎・つり幸を舞台に開催された。当日は、地本の大会としては天候に恵まれ、腕はさて置き、それなりの成果を期待して観音崎沖や剣崎沖に、いざ出船した。しかしながら、いくら柵を変えようが竿先がピクリともしない。結果、アジ船の竿頭は六匹、タイ船は何とゼロ!のため、外道のサバの本数で競う羽目になった。来年こそは、天候も釣果も



五月二〇日、昨年開催できなかった期待の第六回海釣り大会が、川崎・つり幸を舞台に開催された。当日は、地本の大会としては天候に恵まれ、腕はさて置き、それなりの成果を期待して観音崎沖や剣崎沖に、いざ出船した。しかしながら、いくら柵を変えようが竿先がピクリともしない。結果、アジ船の竿頭は六匹、タイ船は何とゼロ!のため、外道のサバの本数で競う羽目になった。来年こそは、天候も釣果も

- 五月二〇日、昨年開催できなかった期待の第六回海釣り大会が、川崎・つり幸を舞台に開催された。
- 【鯛の部(外道)】
- 優勝 北條芳明さん (大井工場)
 - 準優勝 松浦光成さん (大宮・川越電車区)
 - 第三位 佐藤 治さん (大井工場)
- 【鯿の部】
- 優勝 綾 亨さん (上野・松戸駅)
 - 準優勝 栗原 哲さん (大井工場OB)
 - 第三位 落合直樹さん (八王子・豊田電車区)



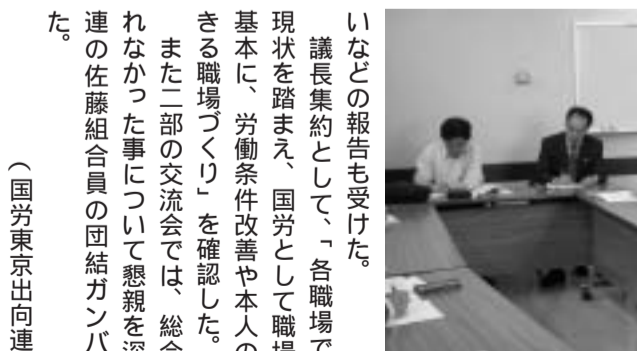
京出向連第2回総会

国労東京出向連は五月二四日、東京滝野川会館に於いて七四名の参加で第二回総会を開催した。今回の総会は、「設備部門のメンテナンス再構築」が三年経過し、各パートナー会社とJRの問題点、各職場での問題点や取り組みの報告を受ける、今後の出向連活動にとって大事な総会となった。地本・宮崎執行委員の司会で始まり、結成からの経過を含めた報告を受けた。東京地本を代表して笹原書記長より、西日本に於ける列車事故を契機とした鉄道部門における安全に対する取り組み、組織拡大行動の取り組みの報告を受け、通信・電力・配電・施設検査・機械の五分散会を行った。各分散会報告における特徴は、「要員不足により月二〇〜三〇時間の超勤が発生」「連続夜勤も計画」「障害事故の取り扱い三項目が無視されている」また、出向満了時発令で本人の希望通りならず、JRに戻っても元職場ではなく遠い職場、「P会社から他のP会社に出向発令される」「発令で要員減にな

5.14 出向連が第二回総会開催

国労東京出向連は五月二四日、東京滝野川会館に於いて七四名の参加で第二回総会を開催した。

今回の総会は、「設備部門のメンテナンス再構築」が三年経過し、各パートナー会社とJRの問題点、各職場での問題点や取り組みの報告を受ける、今後の出向連活動にとって大事な総会となった。地本・宮崎執行委員の司会で始まり、結成からの経過を含めた報告を受けた。東京地本を代表して笹原書記長より、西日本に於ける列車事故を契機とした鉄道部門における安全に対する取り組み、組織拡大行動の取り組みの報告を受け、通信・電力・配電・施設検査・機械の五分散会を行った。各分散会報告における特徴は、「要員不足により月二〇〜三〇時間の超勤が発生」「連続夜勤も計画」「障害事故の取り扱い三項目が無視されている」また、出向満了時発令で本人の希望通りならず、JRに戻っても元職場ではなく遠い職場、「P会社から他のP会社に出向発令される」「発令で要員減にな



り夜間作業が増え、仕事の密度が濃くなった」という点。職場での取り組みでは、「統一した休日申し込みや職場要求の会社申し入れ」の報告を受けた。しかし今回の出向以降、職場集会の開催や機関への結果が難しいなどの報告も受けた。議長集約として、「各職場での取り組みや現状を踏まえ、国労として職場からの闘いを基本に、労働条件改善や本人の希望が実現できる職場づくり」を確認した。また二部の交流会では、総会の中で話さなかつた事について懇親を深め、東京出向連の佐藤組合員の団結カンパニーで閉会した。(国労東京出向連議長・鈴木忠)

新橋支部が横浜支部は 準優勝 第三位

〈第10回東日本本部野球大会〉

第一〇回国労東日本本部野球大会が、五月二日・三日に大宮健保グラウンドで開催された。五月と思えぬ肌寒い陽気にも拘わらず、「昔取った杵柄」を發揮して、熱戦が繰り広げられた。東京地本は準備地本のため、A(新橋支部)・B(横浜支部)二チームが出場した。第一試合では、Aチームは辛くも秋田チームに同点に追いつき引き分けたが、Bチームは長野チームにノーヒットノーランという屈辱を味わった。これで上位進出を諦めかけたが、しぶとく抽選により、Aチームは決勝戦に、Bチームは三位決定戦に進んだ。結果Aチームは、長野チームの原選手(ピッチャー)の好投・巧打の前に破れ準優勝となった。Bチームは秋田チームに勝ち三位となった。次の大会は、また二年後となる。



準優勝の新橋支部チーム
第三位の横浜支部チーム